

大子町にバイオマス発電所

来年10月稼働目指す

企業立地で協定締結

エジソンパワー

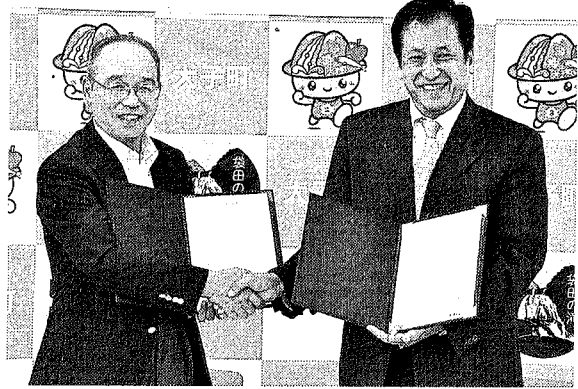
大子町とエジソンパワー（東京都中央区3-3-9、山田敏代表取締役）は1日、企業立地に関する協定書調印式を行った。エジソンパワーは町営の温泉保養センター「森林の温泉」に隣接する町有地（矢田15-6、15-9の一部、土地面積8963㎡）に木質

バイオマス発電所を建設し、熱供給事業を行う。FIT制度に基づき小規模木質バイオマス発電事業で、ガスエンジンを用いて発電機を稼働し売電する。さらに、ガスエンジンからの排気ガスなどによる廃熱は、温泉施設の温泉水の加温に利用。発電所に温泉水を引

き込み加熱した後、施設へ供給する仕組みをとる。発電所の名称は「だいご森林（もり）の発電所」。発電容量は1・1MW（定格出力）で、約2500世帯分の電力を賄うことが可能となる。燃料調達量は約1・2万t／年を見込む。来年8月

ごろに試運転、同年10月からの本格稼働を目指す。建設地では現在、エジソンパワーに燃料を供給するため、地元の林業関係者で結成された「大子再生可能エネルギー協議会」が造成工事を進めている。順調に行けば来年ごろから施設の建設工事に着手する見通し。

式調書協定に関する也



協定書を手に握手する綿引町長(左)と山田代表取締役

に着手する見通し。なおエジソンパワーは1991年設立。メガソーラー発電など再生可能エネルギー事業に取り組んでいる」と話している。組んでいる。今回の立地については「雇用の拡大や林業の振興、観光業への波及効果に期待している」と話している。